

横浜実践看護専門学校

令和4年度自己点検評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目標		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1				エビデンス
1	1 学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	・学生便覧P21「教育計画」
	2 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を描いているか	④	3	2	1	・学生便覧の各学年の到達目標に記載
	3 学校における職業教育の特色は明確になっているか	④	3	2	1	・学生便覧P21「教育計画」 教育目的・目標に記載
	4 理念・目的・目標育成人材像・特色などが学生、保護者等に周知されているか	④	3	2	1	・新入生入学前オリエンテーション、各学年保護者会にて周知

①現状と課題

- ・学校の理念・目的・人材育成像について定めた上で、学生便覧・学生生活の手引きに明記。学生には入学時の新入生ガイダンスと校外研修において共有。保護者に対しては各学年の保護者会を実施して説明をしている。保護者会に於いても広く質疑を募る機会も設けており、本校の教育活動について理解を頂けていると考える。また、入学から卒業までのカリキュラムマップを作成。全学生、教員の到達度理解、共有に効果があった。

②今後の対策

- ・実践的な職業教育への理解をより深めるため、入学時の学生を対象とする新入生ガイダンスに加え、入学後1か月以内に保護者対象の職業教育に関する説明会をオンラインを積極活用しながら継続実施する。学生の成長や学びを支え自立を促す家庭の役割は職業教育において重要であり、保護者と学校との円滑な関係を築くことは国家試験合格に向けた学生の学習意欲の向上に繋がるため、学校から積極的に保護者へ働きかけ、家庭と学校でのダブルサポートを徹底していく。
- ・オンラインを積極的に活用し、保護者が参加しやすい環境で保護者会を実施する。

2. 学校運営		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
2	1 目標等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	・校務分掌規程 ・年度当初に事業計画を策定し、責任者を配置して、進捗状況を管理
	2 運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化され機能しているか	④ 3 2 1	・組織図、会議等に関する規程に記載
	3 人事・給与に関する規定は整備されているか	④ 3 2 1	・就業規則、給与規程、業務評価に関する規程
	4 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	・臨地実習契約書、個人情報・プライバシーの保護の徹底 ・事故発生時マニュアルを策定
	5 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	・平成27年度より自己点検評価を実施、ホームページにて公開 ・保護者会で学校運営、教育活動を報告
	6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1	・学生の情報を一元管理した「学習支援システム」、就職支援のための「就職支援システム」を活用

①現状と課題

- ・ 学生や保護者からの問合せは、校長・教務主任・学年担任を中心に対応している。また、対応した内容については、定期ミーティングや定例会議、グループワークを通じて教職員間で綿密な情報共有を図っている。
- ・ コロナ感染拡大防止により予定の実習および実習途中での中止があり、学内実習で代替した。学習効果に影響が出ないよう、シミュレーターモデルや教材用電子カルテを活用したシミュレーション実習を実施した。
- ・ コロナ禍で整備した学内のWi-Fi環境を活かし、ICTを活用した効果的な学習が定着してきている。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用している。

②今後の対策

- ・ 学園本部と連携を図りながら、情報システムの導入、ITを活用した効果的な教育ならびに業務管理を目指していく。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用している。

3. 教育活動		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1				エビデンス	
3	1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧カリキュラム学生便覧「構造図」「学科進捗表」 ・下記ポリシーを策定(学生便覧)ディプロマ・ポリシーカリキュラム・ポリシーアドミッション・ポリシー ・教育理念目的・目標に沿ったカリキュラム作成・知識・技術・態度を含めた実践力の向上のカリキュラム編成と演習・実習時間・課外活動の確保
	2	教育理念・育成人材像や看護師需給を踏まえた修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確か	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム学生便覧「学科進捗表」 ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める基準に基き、旧カリキュラム、3000時間97単位新カリキュラム102単位の運用
	3	カリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧カリキュラム共通学生便覧「構造図」学生便覧学科進捗表」 ・新カリキュラム概念枠組みを学生便覧に掲載 ・基礎、専門基礎、専門科目の順に進度と学習内容の体系付け実施
	4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学、臨地実習(1035時間)をカリキュラムに組み込み学生の実践力を涵養 ・該当分野の教職員の学会発表、研修会の計画と実施は無し
	5	関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの教育方法の作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設と実習開始前に評価方法等の打ち合わせ実施 ・毎年2回、平成28年度より教育課程委員会を実施 ・実習指導者会議を実施し、指導体制意見交換を検討
	6	関連分野における実践的な教育が体系づけられているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧カリキュラム共に学生便覧「学科進捗表」 ・順序性、領域ごとに学習内容を規定
	7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価委員会を組織化し実施 ・アンケートによる授業・実習評価を実施し、評価果を教員にフィードバック ・スタログの活用 ・データによる可視化
	8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧カリキュラム共に学生便覧「施行規則」に明記
	9	資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策として模擬試験と振り返りを1年次より実施 ・国家試験の傾向と対策について教員が模擬試験実施業者、出版社より情報を得て指導 ・指導研修会への参加 ・専門外部講師による補講、実習後領域別国家試験問題取組み ・教員による弱点問題の指導及び補講を複数回実施
	10	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員資格取得者を採用し、専任教員養成未受講教員については計画的に研修を実施。 ・外部講師については、看護教育に携わった経験講師を採用 ・本校の教育目標を説明し、シラバスを提示・協力依頼 ・教育理念、教育目標は図式化と保護者に説明、本校での学びの到達を可視化

11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学会、研修会の積極的な参加後教員に伝達講習会を実施 ・コロナ禍の影響もあり、教員の学会への参加が減少
12	職員の能力開発のための研修が行われているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ研修、目標管理研修、ファシリテーター指導に参加。教員間の学習会実施

①現状と課題

- ・ コロナ禍の影響は軽減されたものの、オンライン授業も一部併用した。実習も学内実習に置き換え実施した。今後もコロナだけではなく、学習環境に何らかの制限が起こりうる状況は予測できるため、学内だけでなく近隣の学校や施設の状態などの把握とネットワーク作り、協力体制の構築が課題である。
- ・ 新カリキュラム運用に向け、看護過程の学習会を計画し実施した。講師による講義と演習、プロジェクトチームの運営と教員全員の学習会を段階的に実施した。新しい取り組みのため教員の不安も大きい。新カリキュラム移行時の基礎看護学実習Ⅲに向け、情報交換や情報共有できる場を設けながら進めることが課題である。
- ・ 学生の生活背景も様々であり、心身だけでなく経済的なサポートを必要とする学生が増加している。
- ・ 旧カリキュラムでの卒業をする学生4名に、新旧対象表を提示した。自ら取り組み、計画的に取り組むことが苦手な学生のため、修得すべく単位の履修（100単位）ができるように、保護者との情報共有とサポート体制の強化とが課題である。

②今後の対策

- ・ 教育効果を最大限に引き出せるような新カリキュラム運用の評価と改善点の洗い出し
例・教授方法の見直し、キャリアビジョンを考慮したシラバス学習内容の具体化などの見直しを行う
- ・ 旧カリキュラムにて卒業をする学生4名の確実な単位履修に向け、計画的に学習に取り組めるよう、特に後期時間割の提示をする。実習調整・講師・実習施設と単位未履修の学生の情報提供と情報交の実施
履修計画の相談と履修状況の確認を定期的に学生と実施する

4. 学修成果		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
4	1 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、アドバイザーに加え学内就職担当・就職指導部による総合的就職支援を実施 ・模擬面接、履歴書の書き方、接遇について指導 ・就職確定率100%達成に向け採用時期の相談に随時対応 ・学内に実習病院を招き学内合同病院説明会を2年次の3月に実施し早期に就職の意識付け実施
	2 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率100%を目指しグループによる試験対策模擬試験を随時実施 ・自宅学習時間確保の指導、学習環境の調整 ・卒業試験の実施 ・領域毎の補講の実施
	3 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・主な退学理由として、1年生は進路変更、2年生、3年生は実習を境に学習意欲が低下の訴え ・経済的支援が必要な学生については、定期面談を実施し、奨学金等の案内を行っている ・令和4年度退学率は4.1%
	4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生は担任・アドバイザー面接で産学連携の参加、ボランティア活動などを把握 ・卒業生は実習病院や来校する卒業生から情報を入手
	5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会や学園祭ホームカミングデーを通し卒業後の動向を把握

①現状と課題

- ・時間が限られた中、病院説明会やインターシップに参加しながら就活動を行った。卒業後の5月に就職先が決定した学生1名を含め、就職率は100%であり、自身の希望する就職先に就職することができた。
- ・国家試験合格率も2年連続で全国平均を上回る結果（95.5%）となった。とはいえ不合格者を出している現状であり、継続して100%の合格率を目指し、対応を進めたい。

②今後の対策

- ・3年次担当教員を中心に、これまでの丁寧な個別指導対応に加え、学内、学外の国家試験対策施策を積極的に導入。その都度、効果を判定しながら、より効果的な国家試験対策施策を見極めて行く必要がある。

5. 学生支援		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
5	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	・担任、アドバイザーに加え、就職担当と就職指導部が連携し就職支援体制を構築 ・学内合同病院就職説明会実施 ・模擬面接、接遇研修の実施
	2 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	・学習面では担任、アドバイザー、実習担当教員がサポート ・健康面は校医、スクールカウンセラーによるサポート ・学校生活全般、経済的な面は担任、アドバイザー、事務局の担当者による対応
	3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	・横浜実践看護専門学校特待生制度 ・岩崎学園看護師育成基金 ・岩崎学園奨学生 ・学費分割納入制度 ・学生寮 ・岩崎学園以外の奨学金制度 ・給付金
	4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	・年度毎に健康診断を実施。 ・校医による健康診断後の指導、看護教員による健康相談を適宜実施 ・カウンセラーによるカウンセリングの実施
	5 課外活動に対する支援体制は整備できているか	4	3	②	1	・コロナ禍でボランティア活動が相次いで中止となったが、岩崎学園横断の学園祭、Icon、アイデアソン等へ参加、他校との連携強化を実施
	6 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	・学生寮、学生会館の提供。その他の相談は担任、アドバイザーが実施。定期面談の実施
	7 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	・入学直前オリエンテーション、各学年毎に保護者会を実施に、学校生活、学習状況を説明
	8 卒業生の支援体制はあるか	④	3	2	1	・岩崎学園校友会 ・学園祭のカミングデイ実施
	9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	・臨床看護スタッフの技術演習、シミュレーション教育研修の実施
	10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1	・高校生の来校対応、高校生への模擬授業の実施、高校訪問で看護師について説明をして看護師養成の理解促進を実施 ・神奈川県専修学校各種学校協会の協力を得て、「総専協夏季連携講座（看護師系）」開校

①現状と課題

- ・保護者との状況共有については、コロナ禍を考慮し、対面ではなくオンライン保護者会の開催とした。しかしオンラインでは保護者の方に学習環境をご理解頂くのに限界があり、学校に来ていただき、保護者の目で学習環境を見たり、教員と直接関わることで学校との信頼関係の構築に重要であると考えた。引き続き、感染状況に合わせ保護者会や行事などの開催の検討が課題である。
- ・高校生との連携は、総合学科の高校生の体験講座を受け入れ（8月）、卒業生の連携は連絡体制の強化も継続している。また卒業生同士のネットワーク構築により、お互いの現場の現状を知る機会となる。在学生にとって卒業生の話を直接聴く機会は、学生のモチベーションの向上につながった。卒業生の来校時期や対象学年のレジネスを合わせた企画内容の精選が課題である。
- ・学年による個人面接の実施、実習担当教員との面接、チューターによるサポートなど実施した。経済的問題を抱えている学生も増えている、事務との情報提供や情報共有も課題である。
- ・学生に貸与するPCのトラブルが多い。トラブルの回避は難しいが、迅速な対応と対応マニュアルの作成が課題。

②今後の対策

- ・ 昨年より継続し、担任制の更なる充実と、保護者との連携を強化することで、学校と家庭でのダブルサポート体制を充実させ、学生の状況把握や学習支援、生活支援を進めていく。
保護者とは連絡を密にし、積極的にアプローチを進め学生サポート体制を充実する。
- ・ 新カリキュラムでは、多職種連携や、より実践に近い判断能力が重視されている。
科目に応じ、臨床で活躍されている専門看護師に、講義を依頼している。最新の現場の状況や知識に繋がる実習への意欲向上、学校や学生を知ることに関わる、講師の理解促進や内容の精選について継続、評価が必要。
- ・ 就職活動では、キャリア開発と連携を図りサポートをする。
- ・ 感染状況に応じて、ボランティア活動に参加し、視野を広める。

6. 教育環境		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
6	1 施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定規則に沿った必要な教材の確保はできている ・ 設備は教室・看護実習室及び各演習室、図書室
	2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部施設を利用し、新入生宿泊研修を実施 ・ 単位取得に必要な臨地実習施設の確保 ・ インターンシップは学生が主体的に計画・実施している ・ コロナの影響で海外研修は中止
	3 防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生、教職員を含めた全員参加防災訓練を定期的に行っている ・ 不審者侵入を想定し防犯訓練実施。 ・ 消火器や消火梯子等防災機器の設置個所、使用方法の説明・体験 ・ 緊急連絡網の作成

①現状と課題

- ・ 看護学校の施設として10年が経過している。施設の点検および修繕計画と予算確保が課題。
- ・ 防災訓練はコロナ禍の制限の中、可能な範囲の中での実施であった。異常気象や災害が頻発している。防災への興味関心を高め、命を守る意識の定着を図る防災訓練の時期や内容など精選が課題。

②今後の対策

学校施設及び備品の点検作業を行い、修繕の計画立案と実行。

7. 学生受入れ募集		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
7	1 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか。	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンス、学校説明会、入試説明会、オープンキャンパス、高校訪問等で情報を提供 ・ 各種進学情報誌で学校基本情報等を提供
	2 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ Webサイトや入学案内書に学校の理念、教育目的、教育課程を掲載し、学校の特徴を公開
	3 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学案内書、高校訪問、進学ガイダンス、Webサイトにて情報を公開
	4 学生納付金は妥当なものになっているか	④ 3 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集要項やWebサイトにて全学年分の学費、教材費を公開

①現状と課題

- ・ 学生募集については、18才人口の減少、看護系大学が増設される中、ますます厳しさを増してくる。高校新卒者に囚われず、社会人を含め多様な人材の受入れが課題。

②今後の対策

- ・ 高校新卒者については、引き続き高等学校の進路担当教員との連携を深め効果的な受入れを行う。また、現役生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベントを設定し、募集間口を県内の大学にも拡大する。

8. 財務		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
8	1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	・決算書（令和4年度）
	2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	②	1	・予算書（令和5年度）
	3 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	・独立監査法人の監査報告書（令和4年度）
	4 財務情報公開監査の体制整備はできているか	④	3	2	1	・ホームページにて公開

①現状と課題

- ・ 法人の財務状況は適正であるが、学校単体では収入より支出が上回っており、法人により収支差を埋めてもらっている状況にある。
- ・ 予算計画を基に運営しているが、コロナの影響による支出が増え、予算計画との差異が出た。

②今後の対策

- ・ 教育設備の導入にあたっては、教育カリキュラムにおける学生の使用頻度等の妥当性を精査したうえで決定し、学生の成長に資するために、導入設備の利活用を学校全体で共有する。

9. 法令等の遵守		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
9	1 法令、保健師助産師看護師法、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	・保健師助産師看護師学校養成所指定規則等に基づき、行政指導の下で適正に運営
	2 個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか	④	3	2	1	・入学試験願書書類、成績表、実習記録、患者受持承諾書などの学生の個人情報に関し、鍵のかかる場所に管理し、守秘義務の徹底を励行 ・学生に対し、講義などを通じて倫理的配慮の指導を実施
	3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1	・自己点検評価を平成28年度より実施し、問題点を共有したうえで対策にあたる
	4 自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1	・自己点検評価を実施、平成27年度実施分よりホームページにて公開

①現状と課題

- ・ 平成27年度より自己点検評価について情報公開し、過去の実施を元に点検項目や評価基準及び手法の妥当性について精査を進めている。

②今後の対策

- ・ 点検項目や評価基準及び手法の妥当性に関する精査に加え、ユニフィケーションの一環として臨床現場との連携を図り、臨地実習病院の実習指導者による学校への評価の導入等を進めていく。また、自己点検評価の結果を外部非常勤講師とも共有し、実践的な看護教育の向上や学校運営に関するアドバイスを求める。

10. 社会貢献・地域貢献		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
10	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科高校夏季公開講座」(夏休み1講座)の実施による高校生の受入 ・通信制看護教員養成研修のため、本校教員および施設を活用
	2 ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	③	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、神奈川県との包括協定にて、各種スポーツイベントへの救護活動や高齢者健康保持コグニサイズ普及活動へのボランティアに参加、令和4年度はコロナ禍で少しずつ回復 ・岩崎学園と地元プロスポーツチーム(ラグビー、ホッケー、バスケット)との産学連携で、ユニフォームデザインや学生トレーナーとして参加

①現状と課題

- ・ 学生は時間を有効活用して、神奈川県との包括協定による各種スポーツイベントや産学連携にボランティア活動に積極的に参加している。

②今後の対策

- ・ 学生の特質や希望等を把握し、地域連携講座や神奈川県との包括協定等、社会活動の実施内容と照らし合わせた上で、学生に活動内容の紹介をしていく。併せて、年間計画と具体的な活動内容を全学生へ事前に周知し、学生が主体的に参加計画が立てられるようにしていく。

11. 国際交流		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
11	1 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・入学選考規定(入学資格審査項目)
	2 国際交流を意識した授業科目が設置されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎分野「国際文化交流」の設置
	3 国際的視野を広げるための学習環境を整えているか	4	3	②	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際文化交流」において、台湾への海外研修を実施しなかった ・学内での台湾医療に関する課題発表となった

①現状と課題

- ・ 留学生の受入体制は整備はされているが、2023年度生募集において入学志願者はいなかった。

②今後の対策

- ・ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことから、感染予防対策(マスク着用・手洗いうがい励行・3密の回避など)を継続しながら台湾研修を計画する。